

氏名	森田望
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第106号
学位授与年月日	平成20年3月25日
学位論文題目	重症心身障害児看護における意思表示の読み取り技術 を構成する要素

論 文 内 容 要 旨

※整理番号	110	(ふりがな) 氏 名	もりた のぞみ 森田 望
修士論文題目	重症心身障害児看護における意思表示の読み取り技術を構成する要素		
<p>研究の目的</p> <p>本研究の目的は、重症心身障害児のケアにあたる看護師は、重症心身障害児の意思表示をどのように捉え、読み取っているのかを明らかにすることである。</p> <p>方法</p> <p>重症心身障害児 1 人とそのケアを行った看護師（准看護師）6 人を対象に、ケア場면을参加観察法した。調査で得られた内容を質的帰納的に分析した。</p> <p>結果</p> <p>分析の結果、重症心身障害児の意思表示の読み取り技術は、【患者の身体的反応から読み取る】、【情報を関連させて読み取る】、【自己の尺度で読み取る】、【患者の可能性を見出す】及び【訴えを感じ取る】の 5 つのカテゴリーとして抽出された。</p> <p>【患者の身体的反応から読み取る】カテゴリーは、[筋緊張状態の度合いを見分ける]、[筋緊張状態の持続時間を見分ける]、[表情の変化を見分ける]、[声（調子、高低、大小）によって快と不快の訴えを捉える]、[声（調子、高低、大小）による読み取りの限界を自覚している] から構成されていた。</p> <p>【情報を関連させて読み取る】カテゴリーは、[いくつかの情報を合わせて快と不快の訴えを捉える]、[身体的反応と知識を合わせて快と不快の訴えを捉える] で、いくつかの情報とは筋緊張状態、表情の変化、声（調子、高低、大小）、呼吸状態、発汗、体温から構成されていた。</p> <p>【自己の尺度で読み取る】カテゴリーは、[筋緊張状態の度合いを測る自分なりの尺度をもっている]、[患者の反応のパターンを経験として沢山もっている]、[自己の経験との比較によって快と不快の訴えを捉える] から構成されていた。</p> <p>【患者の可能性を見出す】カテゴリーは、[身体的反応を言葉の意味の理解による動きと捉える]、[身体的反応を意図的な動きと捉える] から構成されていた。</p> <p>【訴えを感じ取る】カテゴリーは、[刺激への反応がない事に意味を見出そうとする]、[表情の変化に意味を見出そうとする]、[声に意味を見出そうとする]、[身体的反応を訴えの表現であると捉える]、[感じ取った気持ちを共有していることを表現する] から構成されていた。</p> <p>考察</p> <p>分析結果から、重症心身障害児の存在の在り様は、身体的反応といった外層と、訴えや感情をもつ中核で成り立っていた。看護師は、外層から客観的に捉えて読み取るだけでなく、主体性をもつ個人として尊重し、訴えや感情を共有していることが明らかになった。微細な反応を訴えの表現としてすくい上げて展開しているやりとりは、理解し合える存在という信念に基づいた相互作用であると考えられた。今回抽出された技術を形式知として共有する際は、相手に関心をよせ、微細な反応を観察し、その意味に気づく関わりが必要である。</p> <p>総括</p> <p>今まで明文化されていなかった重症心身障害児看護における意思表示の読み取り技術が明らかになったことで、実践への体系化を図り、教育や重症心身障害児を育てる家族への支援に活かすことができる。それにより、看護師の能力の育成や組織の生産性の向上につながられる。</p>			

- (備考) 1。研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)
2。※印の欄には記入しないこと。